

北羽新報

発行所 北羽新報社
〒016-0891 能代市西通町3-2
0185-54-3150
広告部 0185-54-3155
販売部 0185-54-3158
東京支社 047-322-0500
仙台支社 022-273-0955
秋田支社 018-823-4640
二ツ井支局 0185-73-4036

白神森林組合 山の適切管理へ地道に

私有林の境界明確化事業

白神森林組合(金野忠徳組合長)が能代山本管内で取り組んでいる私有林の境界明確化事業。管理が十分に行われていない山林で境界を明らかにし、間伐などの適切な管理を推進するための取り組みで、昨年度までの6年間で511秒で実施した。図面の作成や所有者の追跡などに膨大な手間がかかり、私有林全体で見ればまだ一部にとどまっているが、同組合は「集落が心をついに山を管理・活用して放置林を解消できるよう、今後も地道に取り組んでいく」としている。(山谷 俊平)

森林の境界は所有者の代替わりなどで判別できなくなっているケースが多いとされる。同組合は能代山本の私有林約3万4千秒の4割ほどは境界を明確化できていないとみている。境界がはつきりしていなければ、間伐や下刈りなどの障害となる。隣接する林の所有者間でトラブルが発生しないよう、過去に間伐が限定されがちという。

調査踏まえ画定
明確化の一步が調査で、

日曜特集 2020インサイドレポート



境界に杭を打つ作業の様子。明確化が地道に進められている

森林の所在地や所有者が記載された森林簿、大体の位置関係が分かる公図を調べ、素図を作る。また、境界の目印となっている木や杭のほか、所有者の追跡にも手

などがあるか現地で確認し、所有者に立ち会ってもらって境界を画定させ、測量を実施。その上でCADで境界測量図を作成し、説明会で確認してもらう。

実績を積み上げ

手間のかかる取り組みだが、国や県の交付金を受けながら地道に実施。これまでの実績は26年度30秒、27年度105・79秒、28年度99・35秒、29年度98・46秒、30年度87・98秒、31年度90・22秒で、6年間の合計で511・8秒に上った。金野組合長は「境界を明確化できたからといってすぐ金になるわけではないが、山を有効活用するための先行投資。能代山本で毎年50秒はやろうと取り組み、ますますの実績だと思ふ」と話す。

6年間で511秒 林家の関心も徐々に高まる

広がっている。地元の人々の協力があったからこそできること」と話す。また、他県の林業団体からも注目され、講演を頼まれることもある。

能代市二ツ井町小掛地区では、28年度に40・9秒で境界を明確化して間伐を行い、将来にわたって山林を管理するための作業道も整備した。区長の成田政弘さん(73)によると、100人以上の所有者がいるものの、代替わりで自分の山の位置や状態が分からず放置されていたという。親が子どもを山に連れていって境界を教えるようなことはなかった。ほとんどの人が「どうしようもない」とあきらめ、手入れをしてこなかった」と話す。

今年度150秒

同組合からの打診をきっかけに、「山を活かすための第一歩」として境界明確化に取り組んだ。作業後、木々が込んでうっそうとしていた山が明るくなり、「木が喜んでるように見えた」と成田さん。今後、整った環境の中で木が成長して価値が付き、伐採に至る日を思い描く。